

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっぽんしゃだんほうじんあきたうじゃく・ひじかたよしきねんせいねんげきじょう 一般社団法人秋田雨雀・土方与志記念青年劇場			団体ウェブサイトURL https://www.seinengekijo.co.jp/
代表者職・氏名	代表理事 菊池直樹			
制作団体所在地	〒	160-0022	最寄り駅(バス停)	新宿御苑前
	東京都新宿区新宿2-9-20問川ビル4階			
電話番号	03-3352-6990			
ふりがな 公演団体名	あきたうじゃく・ひじかたよしきねんせいねんげきじょう 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場			団体ウェブサイトURL https://www.seinengekijo.co.jp/
代表者職・氏名	代表 北直樹			
公演団体所在地	〒	160-0022	最寄り駅(バス停)	新宿御苑前
	東京都新宿区新宿2-9-20問川ビル4階			
制作団体 設立年月	1964年 2月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表/運営委員長 北直樹 副運営委員長 湯本弘美 副運営委員長 清原達之		劇団構成員 劇団員64名/準劇団員5名 /研究生11名/団友20名/嘱託1名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く		本事業担当者名	白木匡子
経理処理等の 監査担当の有無	有		経理担当者	本田陽子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@seinengekijo.co.jp			

<p><b>制作団体沿革・ 主な受賞歴</b></p>	<p>1964年日本新劇界のパイオニア、秋田雨雀と土方与志に戦後教えを受けた俳優・演出家を中心となって結成、今年創立60年を迎えました。創立以来劇団制に基づくアンサンブルの重視、アクチャルな演劇創造を特徴とし、日本近現代劇、海外の作品などを意欲的に上演してきました。同時に、劇団活動の一つの柱として青少年のための優れた演劇の創造を追求、年間100回程度の学校公演や子ども劇場での公演を続けています。飯沢匡＝作・演出「夜の笑い」の公演成果と小寺隆韶＝作、堀口始＝演出「かげの砦」の青少年劇場巡回公演への評価により第13回紀伊國屋演劇賞団体賞を受賞しました。</p> <p>又、劇団の培ってきた「演劇の力」を社会に還元する活動として、演劇ワークショップの活動にも精力的に取り組み、学校・地域での演劇指導や、スタジオ結を活用してのワークショップを行っています。近年は生きづらさを抱えている若者の心の解放と自立に寄与する社会包摂活動にも新たに取り組んでいます。</p> <p>この間、文化庁芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)・日本芸術文化振興会(日本劇団協議会主催事業・高校生のための巡回公演)・文化庁(舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演))に採択されています。</p>					
<p><b>学校等における 公演実績</b></p>	<p>創立から青少年の為の公演を劇団活動の大切な柱として、北海道から沖縄まで、全国各地での公演を行ってきました。現在も年間2作品で全国の高等学校・中学校での公演を行っています。近年は高等学校での公演数が減少していく中、地域の方も協力して、様々な公演の形を迫及し、青少年のための公演充実に務めています。</p> <p>文化庁以外の学校公演等の実績  「オールライト」瀬戸山美咲＝作/藤井ごう＝演出 2015年～2019年189st  「野球部員、舞台に立つ!」福山啓子＝作/演出 2012年～2015年262st  「きみはいくさいに征ったけれど」大西弘記＝作 関根信一＝演出 2018年～2023年172st  「あの夏の絵」 2015年～2023年現在で206st  「行きたい場所をどうぞ」 瀬戸山美咲＝作/大谷賢治郎＝演出 2023年～2024年現在で47st</p>					
<p><b>特別支援学校等における公演実績</b></p>	<p>平成24年度本事業による「博士の愛した数式」で実施</p>					
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://gakko-kouen.seinengekijo.co.jp/work/anonatsuno">https://gakko-kouen.seinengekijo.co.jp/work/anonatsuno</a></p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="938 1818 1013 1865">ID:</td> <td data-bbox="1013 1818 1447 1865"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="938 1865 1013 1904">PW:</td> <td data-bbox="1013 1865 1447 1904"></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

別添	なし
----	----

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場】

対象	小学生(低学年)		小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	あの夏の絵			
企画のねらい	<p>来年2025年は戦後80年をむかえ、被爆者や戦争体験者の多くが90歳代を過ぎ、次の世代への“記憶の継承”が社会的な課題となっています。</p> <p>広島市立基町高校の「原爆の絵」の取り組みは、戦争を知らない高校生たちが被爆者の証言を聞きとり、それを忠実に絵にしていける事で、自らも被爆者の体験を追体験する事で「被爆の継承」に繋がっています。この取り組みを舞台化し、多くの皆さまに御覧頂きたいと、福山啓子が1年間の取材を元に「あの夏の絵」を立ち上げました。この作品を通して生徒さんと、「平和」について考えていければと思います。</p> <p>又、劇中では性格の違う3人の高校生が、時にはぶつかり合い、時には励まし合いながら友情を育む姿が生きて描かれています。悩みなども話せる仲間になっていく姿に、人と繋がる事や、自分の想いを伝えることの大切さなど、自分達と重ね合わせ観てもらえる作品になっています。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>舞台は広島市内のとある私立高校。美術部顧問の岡田が持ち込んだ「被爆証言を聞いて絵に描く」取り組みに参加する事になった三人の高校生。被爆三世のメグミ。東京から引っ越してきて、平和教育には全く興味のないナナ。漫研と兼部しているアツト。それぞれが証言者・白井の話を書く事で、心を突き動かされていくが…。広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが取り組んでいる実践をモデルに、2015年福山啓子の書き下ろし・演出で初演。その後全国各地での公演を行い、創造的にも高い評価を頂き2018年にはNHKBSプレミアムステージで放映されました。</p> <p>世界での平和に向けた動きが進んでいる半面、ウクライナでの戦争が続く今、この作品を通じて「平和」「戦争」などの問題を、過去から未来にどのようにつなげていく事ができるのか、共に考えることができればと思います。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>生徒さんには本編の始まる前の「ダビンチ先生とミケランジェロ君の絵画教室」というシーンに参加して頂きます。</p> <p>事前のワークショップで生徒さんに一つの「お題」を提示します。そのお題に対してイメージを膨らませ一つのシーンを身体を使って表現する「静止画」を作ります。本番ではその静止画を「ダビンチ先生とミケランジェロ君の絵画教室」の中で発表します。その静止画のタイトルを観客の生徒さんに当ててもらいます。その事で観客も見ただけでなく主体的に参加する事ができます。</p> <p>本番はできるだけ生徒さんたちと劇団員が触れ合う時間を作ります。仕込み見学、バックステージ等、普段は観られないスタッフの仕事を通して、体育館が劇場に変わっていく様子を近くで体験できます。</p> <p>終演後俳優を囲んで座談会を行い、お芝居の感想や、質問など俳優と交流する場を作ります。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	10名	
		鑑賞人数目安	400名	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>「あの夏の絵」 作・演出/福山啓子 美術/石井強司 照明/河崎浩 選曲/堀沢宏幸 音響効果/石井隆 衣装/宮岡増枝</p> <p style="text-align: right;">公演時間 120 分</p>			
出演者	藤井美恵子/広戸聡/中川為久朗/永田江里/藤代梓/傍島ひとみ/松田光寿/津曲海七斗			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤井 美恵子 ふじい みえこ:東京都出身 1967年入団。 主な出演作品/「囲まれた文殊さん」元木輝役/「キネマの神様」円山淑子役/「アトリエ」マダム・ローランス / 「失敗の研究-ノモンハン1939」沢田利枝役</li> <li>・広戸 聡 ひろとさとし: 島根県出身 1978年入団。 主な出演作品/ 「もう一人のヒト」佐藤役 「星をかすめる風」看守長役/「キネマの神様」山本清蔵役/ 「深い森のほとり」で本田隆一郎役/NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」(喫茶店のマスター)《方言指導》</li> <li>・福山啓子 ふくやま けいこ:東京都出身 1980年入団 文芸演出部所属 2006年「博士の愛した数式」で脚本・演出を担当し児童福士文化賞(厚生労働大臣賞)を受賞。他に「野球部員、舞台上立つ」(作・演出)「田端家のゆくえい」(演出)「囲まれた文殊さん」(脚本)「深い森のほとり」(作・演出)</li> </ul>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 8 名	運搬	積載量:	4 t
	スタッフ: 9 名		車長:	9 m
	合計: 17 名		台数:	1 台

<b>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</b>	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～13時		13時30分～ 15時30分	無し	15時30分～ 17時30分	18時
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						
<b>本公演 実施可能日数目安</b>  <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月		8月	9月		
	10日	5日		0日	0日		
	10月	11月		12月	1月		
	0日	0日		0日	0日		
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計	15日	
<b>公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)</b>  <small>※採択決定後、図面等の提出をお願いします。</small>							
	<p>(写真①) 基本は体育館の側面に舞台を設置します。生徒さんにより舞台を近く見て頂くことができます。体育館の広さなど条件は特にありません。</p>						
							
<p>(写真②) 体育館の舞台を使用する場合。体育館の舞台に必要な広さは奥行約4m 間口約8m 体育館の条件や、観劇する人数によってこ</p>							
<b>著作権、上演権利等の 許諾状況</b>	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否			該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名			許諾確認状況		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場 】

ワークショップのねらい	演劇を観た事や、演じた事のない生徒さんでも、「演じる事」が楽しくなるように、まずは緊張をほぐすような簡単なゲームから行っていきます。シアターゲームは声を出し、身体を動かしながら、頭と身体を解放する事、そしてチームに分かれて行うゲームでは、一つの事を一緒に作り合うという一体感を感じてもらい、コミュニケーションの重要性を実感してもらいます。先生方にも一緒に参加していただき生徒たちの表情など、普段とは違う生徒たちの様子を見ていただきます。		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	最大100名
ワークショップ実施形態及び内容	<p>授業時間の2コマを使います。前半は希望する生徒全員でまずはシアターゲームを行います。その後チームに分かれて静止画づくりをおこないます。後半は本公演に出演する生徒(10名)のお稽古になります。(別紙参照)</p> <p><b>【前半】</b>          まずは劇団員の自己紹介、その後参加者全員で3つのゲームを行います。</p> <p>①後出しジャンケン          参加者の緊張をほぐす事を目的に講師対参加者全員でジャンケンを行います。ルールは講師の出したジャンケンに必ず勝つ、あるいは負けるという単純なルールですが、ウォーミングアップとして有効なゲームです。</p> <p>②エア縄跳び          見えない縄を想像して、大縄跳びをします。最後は全員で「跳ぶ」事を目標にします。参加者の呼吸を合わせる事が大切なゲームで一体感と達成感が生まれます。</p> <p>③春夏秋冬          参加者を「春夏秋冬」の4グループに分け、チーム事にテーマを決めて、そのテーマに象徴されるシーンを想像して、みんなで一つの静止画を作成します。最後にチームごとで発表をして、何のシーンなのかを他のチームのメンバーに答えてもらいます。チームでの話し合いを大切にしながら、劇団員もサポートをして発表まで持っていきます。</p> <p><b>【後半】</b>          10分間の休憩をはさんで、本公演に出演する生徒たちのお稽古を行います。生徒さんには「ダビンチ先生とミケランジェロ」という短い作品の中で、一枚の絵(静止画)を作ってもらいます。テーマにそった静止画を「春夏秋冬」のワークの時と同じように、参加者全員の意見をあわせながら作っていきます。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	参加人数は学校の希望を聞きなるべく希望する生徒が全員参加できるように行います。		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 秋田雨雀・土方与志記念青年劇場】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p><b>①本事業に対する取り組み姿勢</b>          青年劇場は1964年の創立以降、学校公演作品(青少年作品)を全国に届けています。</p> <p>コロナ禍を経て、人と人が接する事の大切さ、集団で取り組む事の必要性が語られるようになっていきます。特にコミュニケーションの活性化、自己肯定感、自発行動、などを養うことができる演劇教育の意義は益々大きくなっており、演劇とワークショップを通じて全国の子どもたちと触れ合うことが出来る本事業が重要になってきています。劇団としても広く本事業の意義を伝える為にも公演を成功させ、公演の成果を他の学校関係者等にも伝えていきたいと考えております。</p> <p>本事業で演劇に初めて出会う子どもたちに、演劇は難しいものではない事、又表現する事の楽しさを体験してもらう為にも、ワークショップの内容は毎回検証し、より良い物を目指します。ワークショップでは、集団でひとつの事を表現するという体験を通して、参加者同士の交流が生まれ、又一つの事を一緒にやり遂げるという達成感が生まれます。その経験を大切にして今後の集団生活に生かしていけるよう、生徒だけでなく、教師の皆さんにも一緒に参加して頂きます。</p> <p>ワークショップと公演終了後には、生徒や先生に感想を書いて頂きます。先生方とは時間が許す限り、振り返りを一緒に行い、ワークショップの内容についてのご意見や、生徒たちの変化について共有する場を作ります。          又、講師陣は一回ごとにワークショップの内容について検証し次のワークショップに向けてステップアップを目指しています。</p> <p><b>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</b>          (学校との打ち合わせ)          上演する学校が決まった時点で、先生に作品やワークショップの内容などの資料をお送りします。その後電話でワークショップの打ち合わせを行います。          初めて本事業の担当になる先生も多く、ワークショップから本公演までの流れを、劇団独自に作成した資料もお送りして丁寧に対応していきます。本公演の細かな打ち合わせはワークショップの時に行います。          (ワークショップ)          講師は6名、ワークショップの前に先生と打ち合わせを行い、事前に参加する生徒たちの特徴や注意する事などについて共有します。ワークショップの内容は、この間の経験を生かし、参加人数にあわせたプログラムを組んでいきます。</p> <p>(体育館公演)          劇団の創立以来受け継いでいる体育館仕込みのキャリアを活かし、体育館をより劇場空間に近いものに仕込みます。本番当日普段の体育館が劇場に変わっている事で、これから始まる舞台に向けて生徒たちの期待が高まります。          体育館の大きさや、突然の雨などによって台詞が聞きにくい場合がありますので、集音マイクを仕込み自然な状態で声が届くように調整します。特に近年異常気象の影響で、暑さや、台風などの問題も出てきています。その場合も学校側と丁寧に相談を行い、対応を行っていきます。          仕込み見学も行います。体育館がどのように変わっていくのか身近で見る事ができます。</p> <p>(座談会)          事後交流の場として、出演者を囲んでの座談会を積極的に行います。</p>
--	---